



せ

背中から

何でも見ているおんぶの子



「家事をする時、おんぶをしたいな」という話をよく聞きます。おんぶをしながら「今作っているのは、今日のあなたのごはんだよ」と話しておく、しっかり食べてくれるかもしれないね。

おんぶには“おんぶひも”を用品ますが、種類は様々。腰ベルトタイプでおんぶをすると、赤ちゃんはおぶっている人の背中と顔がぶつかるので、常に横を向くことになります。昔ながらのおんぶひもや一本ひもを使うと、赤ちゃんの頭は、おぶっている人の肩より上に出るので、双方が同じ高さから同じものを見ることになります。折角なら、このほうが楽しいでしょう。一昔前の日本では、祖父母や兄姉も赤ちゃんをおんぶしていたの

で、いろんな人の背中から、いろんな経験をしたのでしよう。

おんぶは、首がすわるだけでなく、背中周りがしっかりしてお座りが安定するまでは待つ方がいいです。それでも、同じ姿勢が続き、長時間になると赤ちゃんの身体に負担がかかります。出来れば30分程度を目安にすること、赤ちゃんが寝たら可能な限り布団に下ろしましょう。

おんぶをしてもらった経験がある人は、上手におんぶできる傾向があります。このことから、おんぶを文化として受け継いで欲しいと願っています。